



ファインスチール

Summer 2025

夏



CONTENTS

01 特集1

じゃがまたで育む保育所

「小山市立間々田中央保育所」

05 特集2

第75回

全国建築板金業者 島根大会

07 ファインスチールを使った 建築設計例 352

木造のニワ

聴く×見る×創る ——

設計：中川 エリカ／中川エリカ建築設計事務所

11 建築めぐり

ウォートルス伝 36 丸山雅子

13 街でみかけるファインスチールの施工例 その60



小山市には渡良瀬遊水地や間々田八幡宮等の自然や歴史、市立博物館やヨシズ産業等の民俗や文化がたくさん詰まっており、まさに「小さな自慢が山ほどある」地域です。地域で育む「おやまっ子」がのびのび活動し、小山市の特徴を凝縮した地域の拠点となるような「小さな自慢が山ほどある」保育所を、子どもたちや親御さん、職員、地域の方々とともにつくっています。

特集
1

じゃがまたで育む保育所 「小山市立間々田中央保育所」

設計：齋藤 隆太郎 / DOG + シオダ建築デザイン事務所

栃木県「小山市立間々田中央保育所」の設計計画を紹介します。
アーチ型の2枚屋根にはガルバリウム鋼板の採用が決定。
『地域で育み、地域でつくる、みんなの保育所』として、
2026年1月の竣工に向けて施工中です。

本誌連載中の「ファインスチールを使った建築設計例」の監修をお願いしている東京大学大月研究室出身の齋藤隆太郎先生とシオダ建築デザイン事務所の共同設計です。

地域で育み、地域でつくる、みんなの保育所

① 地域で育み、地域を取り込む地域包括的な保育所

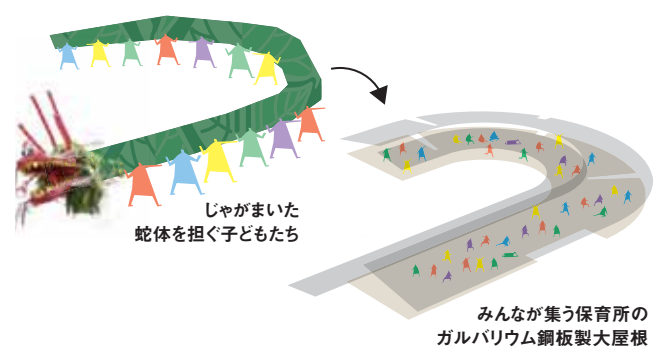
小山市には、間々田のじゃがまたや渡良瀬遊水地を始めとする、歴史・文化・民俗・自然・産業他、様々な地域の特徴があり、地元を自慢できる「おやまっ子」を育む保育所とは、そのような地域の特徴と密接に連携し、地域全体で子どもを育てる保育所であると考えます。また地域の活動やイベントを受け入れる開かれた保育所とすることで、子どもたちだけでなく、地域の老若男女が集い、多世代かつインクルーシブな地域交流が生まれる、「多世代地域交流センター」のような保育所を目指します。

② 地域でつくり、地域の文化・産業を受け継ぐ「身土不二」の保育所

小山市の工業・産業団地と連携する等、最大限かつ適正に小山市内で保育所の建築材料を調達し、骨組みとなる木材は県産材の杉を用いたり(製材は小山市で)、地域のヨシズ文化を活かした「ヨシズ」による園庭の日影ひろばをつくる等、おやまっ子を育む保育所は小山の地の物でつくる「身土不二」の考えを展開します。こうしたMade in Oyamaの保育所は、地域の方々や子どもたちにとって愛着深く、卒園しても地元から離れても、いつでも原風景に立ち返れる「心の拠り所となる保育所」となります。

「間々田のじゃがまた」の蛇づくり

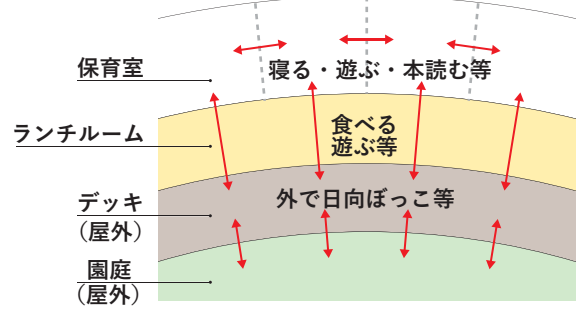
間々田の地元で受け継がれてきた重要無形民俗文化財である「間々田のじゃがまた」は、地域の子もたちが中心になって担ぐ文化があることから、新しい間々田の保育所に適したモチーフであると考えます。緩やかな曲線を描く保育所を龍頭蛇体の巨大な蛇に見立て、その中を子どもたちが走り回ったり本を読んだり、お昼寝をしたりごはんを食べたり。そうした活動とともに、子どもたちの「ジャーガマイタ、ジャガマイタ」という元気な声が聞こえてくるような保育所です。



子どもたちの原風景を紡ぐ「多様性」の保育所

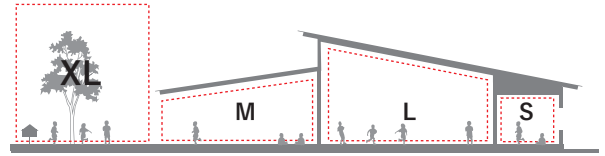
①自由に使いこなせる選択性のある平面計画

保育室は横並びとして年齢毎の保育に加え、異年齢間の遊びを積極的に採り入れます。またランチルームが、保育室とみんなのデッキの間に位置し、ランチを食べたり遊んだり、外の延長になったり、子どもたちの自由な活動の受け皿となります。さらにみんなのデッキは園庭と室内との中間領域的役目を果たし、子どもたちが考えて使う場所となります。



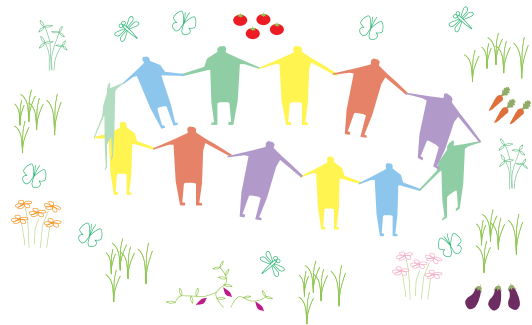
②S,M,L,XLの断面計画

子どもは遊びの天才とされているように、様々に空間を知覚します。保育所の中にもそれぞれ高い低いがあることで、考えながら空間を使いこなし、自発性を育みます。



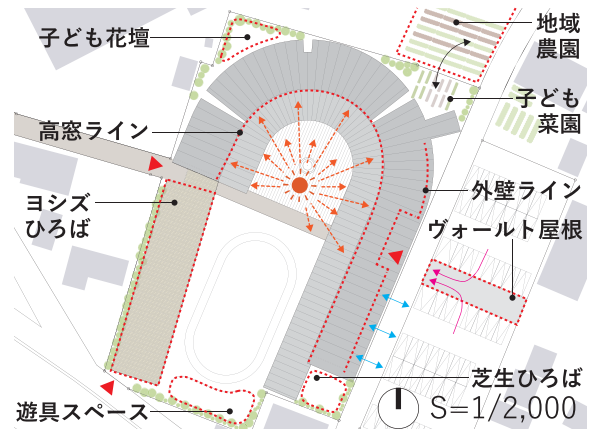
③インクルーシブで生物多様な保育所

現代は多様性の時代です。様々な問題を抱えた子どもや、障がい児、医療的ケア児を受け入れるための設備と空間を設けるとともに、この場所で育つ全ての子どもたちが、虫や花や野菜等と一緒に暮らすことで、生物と一緒に生きる、愛でる、収穫するといった体験を通して、多様性を学ぶ保育所とします。



子ども、大人、地域のための配置計画

蛇が体をくねらせたような配置計画とすることで、みんなのデッキが光溜まりとなり、ランチルームや保育室へ南側から太陽光を採り入れるとともに、東側道路の車の往来から園庭を守ります。そして駐車場中央には屋根を設け、雨天の園児送り迎えや、地域のイベント時に役立つ場となります。また地域農園と子ども菜園を近接させる等、周辺環境との関係性を理解した外部余白の残し方とします。さらに建物外周の軒先は平屋住宅程度の高さとし、周辺に配慮した計画としています。

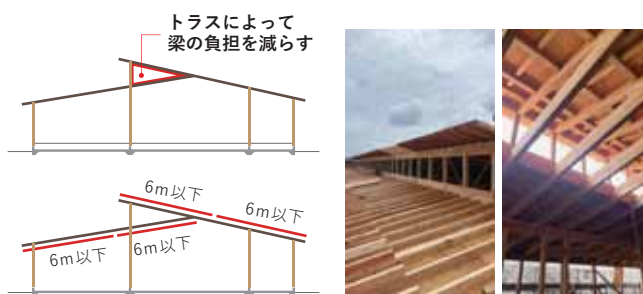


蛇がくねったような伸びやかな全体配置計画

子どもたちがのびのび育ち、地域循環やSDGsに寄与する木造平屋の構造計画

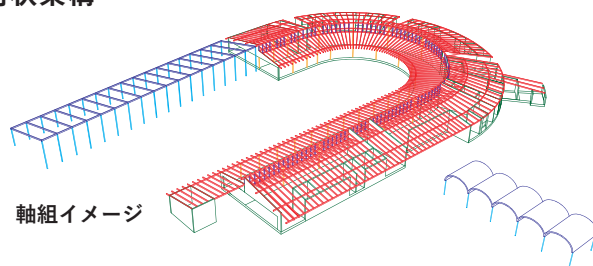
① 施設解体までを見据えた適切な構造形式の選定

部材の最大長を6m程度とし、運びやすく組み立てやすく、人員を削減してコストを抑えるとともに、施工時のCO₂排出量も減らします。さらに解体しやすく、再利用しやすいことで、解体後は部材を他施設や住宅に転用したり、家具や什器に加工します。また木造平屋として建物を軽くすることで、杭や地盤改良をなくしてコストを抑えるとともに、敷地を再利用しやすくします。



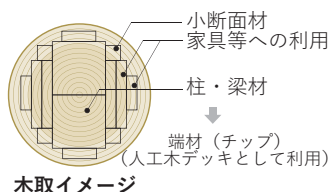
② 子どもたちの原風景をつくり出す合理的な2枚屋根の放射状架構

内側と外側の大屋根が支え合い安心感のある合理的な構造としながら、子どもたちの心の原風景に残るような美しい放射状架構を組みます。ランチルームは放射状木梁を表し、子どもたちが建物から学ぶ木の教材にもなります。



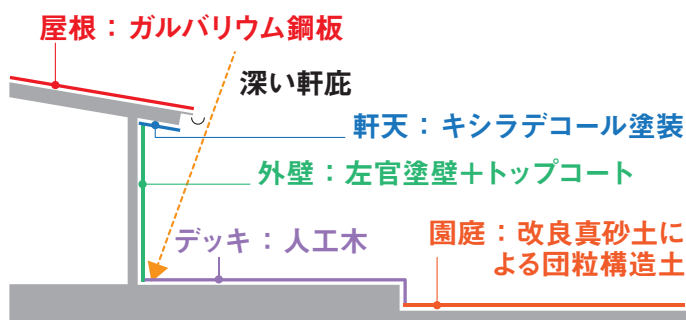
③ 無駄のない木材利用

心材を柱や梁に用いるのはもちろん、小断面部材は間柱や垂木、筋交い、家具等に用いて、一本の丸太を余すことなく使います。また端材をチップ化して固めることで、木デッキ材に用います。



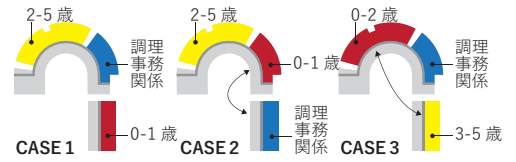
高いメンテナンス性で覆う

外壁や屋根、軒裏には高耐久性、耐候性の素材を用い、深い軒によって雨や直射光による外壁劣化を防ぎます。またデッキは人工木を用いてメンテナンスフリーとし、園庭は真砂土を改良した団粒構造土により、保水性・透水性・水はけを良くします。こうして全体を高いメンテナンス性で覆い、維持管理を容易にします。



子ども、大人、地域のための配置計画

ランチルームや乳児プレイルームを移動空間として、保育室や職員室等の諸室が取り付く平面構成としていることで、職員や利用者の方々との打合せやワークショップを通じて、実情に応じた諸室配置の変更が容易に可能となります。



子ども花壇

子どもたちが喜んで朝顔やパンジー等を育てる教育の花壇



DEN

広い場所だけでなく、低く小さく狭く、子どもたちの遊びを育む秘密基地のようなDEN



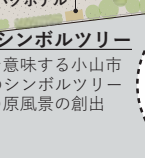
バグホテル

枯枝を並べたり巣箱をつくったり、地域の生物多様性を学ぶ、虫や小動物が集まるバグホテル



バグホテル

シンボルツリーを意味する小山市のシンボルツリーの原風景の創出



ヨシズひろば

地域産業である良質なヨシズを用いた、子どもたちにとって避暑的な日影空間 子どもの山



子どもの山

駆け上がったり滑ったり、子どもの健康を育む緩勾配の子どもの山



様々な遊具

滑り台やジャングルジム等、ワークショップを通じてみんなで決める様々な遊具



子ども菜園

北側隣地の農園と親和性を持った、子どもたちの食育のための菜園



みんなのデッキ

ランチルームにくるっと囲まれた、安心感のある室内の延長のような屋外デッキ



- a 職員 WC(男)
- b 職員 WC(女)
- c 更衣室
- d 職員休憩室
- e 医務室
- f 給湯室
- g 相談室
- h 検収室
- i 食品庫
- j アレルギー用調理個室
- k WC
- l 更衣・休憩室
- m 消火栓ポンプ室
- n 発電機室
- o ゴミ集積場

寄合スペース

朝夕の送り迎えの際に、少し立ち話をするためのホワイエ的空間 ※間々北、網戸保育所のデザインイメージしたキャノピー

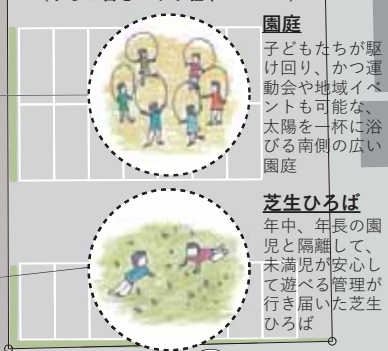


送迎寄合スペース



駐車場 (50台)

(うち2台思いやり駐車スペース)



園庭

子どもたちが駆け回り、かつ運動会や地域イベントも可能な、太陽を一杯に浴びる南側の広い園庭



芝生ひろば

年中、年長の園児と隔離して、未満児が安心して遊べる管理が行き届いた芝生ひろば



子どもたちが自ら選び、遊びを見出す多様な「そと」

子どもたちが自ら場所を選び、日によって遊び方が変わるような、画一的ではない様々な外の居場所をつくります。今日はこっちのお庭で遊ぼう、お花に水をあげよう、ひなたぼっこしよう等、子どもたちの闊達な遊びを受け止めます。



緩やかに囲まれながら開放感のある、ドライミストで涼しいみんなのデッキ



園児送迎がスムーズに行える広いスペースと深い軒のエントランスポーチ



ヨシズひろばと子どもの山の日影空間

第75回 全国建築板金業者 島根大会



板金 ハ サ ミ

8月3日は建築板金の日

〈主催〉

全日本板金工業組合連合会
一般社団法人 日本建築板金協会

〈開催日〉

令和7年5月21日(水) 前夜祭
令和7年5月22日(木) 本大会
於：くにびきメッセ大展示場(島根県立産業交流会館)



国歌斉唱



テープカット

第75回全国建築板金業者島根大会が、令和7年5月22日に島根県松江市の「くにびきメッセ大展示場」で開催された。46組合のすべてで大会開催を実現した岡山大会から1年。流動的で不安定さを増す世の中の醸成に強く立ち向かうため75回大会に約2,000名が参加。



流通協展示ブース風景（「遮熱塗料効果体感模型」「電動式耐震性能比較模型」と屋根のミニチュア模型も展示）

第75回の総合テーマは

「**団結と連携**

両輪で繋ぐ建築板金の未来」

気候変動に伴い激甚化する豪雨災害や頻発化する地震災害により深刻な被害が発生している。一方で議連会長の内閣総理大臣就任は明るい未来を予見させるものとなり、新・担い手3法の改正により、技能者の処遇改善、資材高騰分の転嫁円滑化、就業環境整備といった課題解決への糸口が見え始めた。全板連グループは、優れた技能・技術の継承、安定した経営環境の確立、青年部世代への支援に取り組んできた。島根大会は組織の団結力をさらに高める節目の大会となった。



リニューアルした「電動式耐震性能比較模型」に興味深々の来場者



島根県観光キャラクター「しまねっこ」も応援に駆けつけてくれた



国宝「松江城」鯨の板金製実物大レプリカ



大盛況の展示会場



満員の島根大会会場



石破茂内閣総理大臣からのビデオレター



ホテル一畑で行われた前夜祭は、天野宏昌全日本板金工業組合連合会理事長の挨拶があり、舞立昇治参議院議員（建築板金業振興議員連盟）、丸山達也島根県知事の来賓祝辞、原田活日鉄鋼板社長の乾杯の音頭にて開宴された。



「石見神楽」の公演



天野宏昌 全板連理事長



野満年成 全板連新理事長



岩間辰夫 西部板金工業組合協議会会長



丸山達也 島根県知事



舞立昇治 参議院議員



原田活 日鉄鋼板社長

ファインスチール
を使った

建築
設計例

352

木造のニワ

聴く×見る×創る

設計：中川 エリカ／中川エリカ建築設計事務所

(撮影：写真はすべて、福田駿氏撮影©)



今回紹介する「木造のニワ」は埼玉県の閑静な住宅地にある、建築家の中川エリカ氏の作品である。都内に通勤する施主はインターネットで調べて中川氏に設計を依頼した。施主家族は夫妻と男児二人の四人家族であり、夫妻は共に庭のある戸建て住宅で生まれ育ったことから、自分たちの子どもも庭のある環境で育てたいと思い都内のマンションから引っ越してきた。

敷地は東側に接する前面道路から少し高くなっており、この前面道路の対面には川に沿った緑道が続き見通しの良い立地となっている。なお、他三方は隣家に囲まれている。



東側外観。前面に緑道が続く。

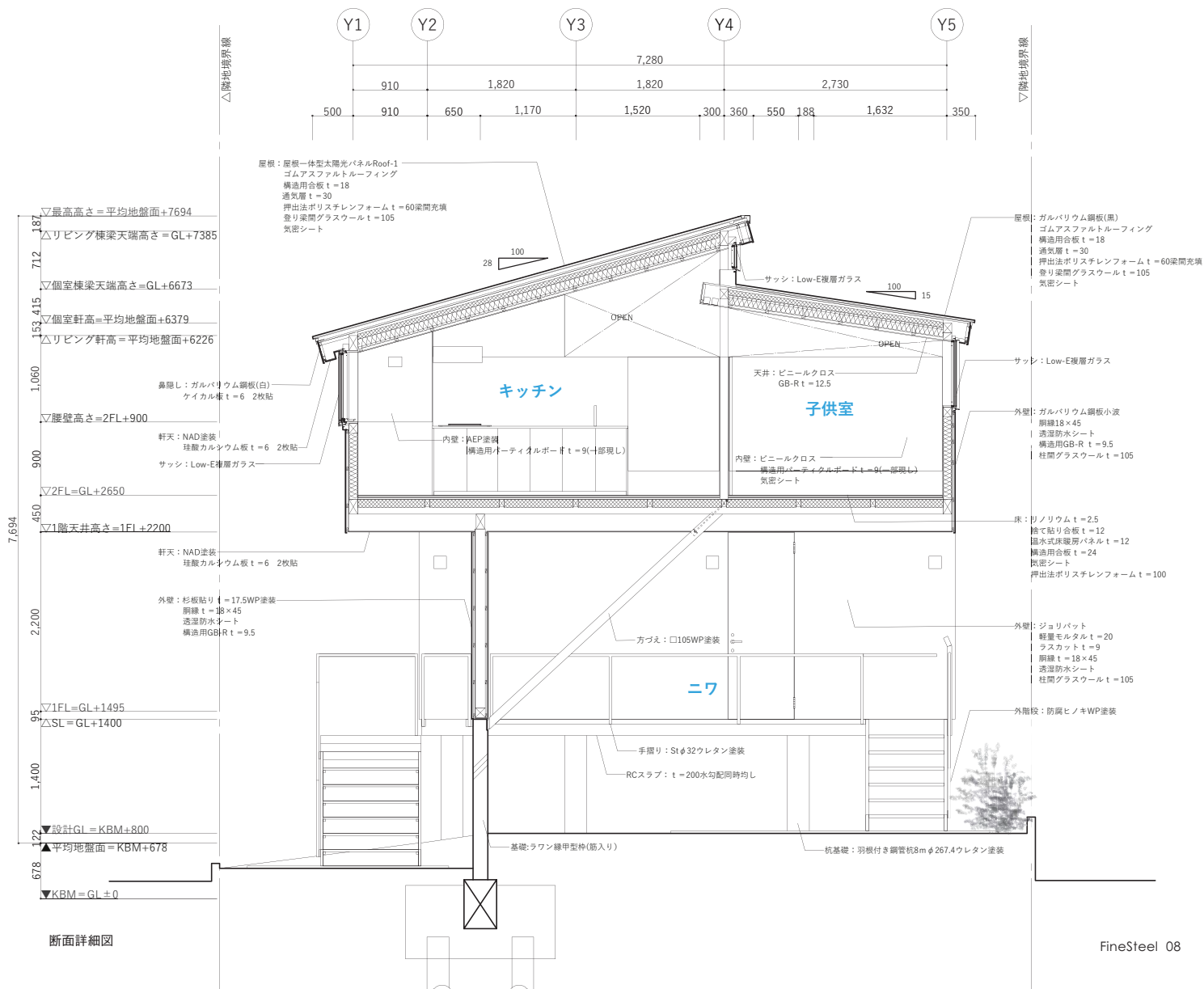
設計コンセプトと空間構成

施主の要望である「庭」を軸に建物の空間構成を検討した。

昨今、東京郊外で庭のある戸建て住宅を満足のいく広さで建てられる

敷地を購入することは、大変厳しくなっていると中川氏はいう。そのような状況で施主の要望に応えるために「建物をつくると同時にニワを創り出す」こととした。また、デザイン的に

街と家の境界をなくすことで、街と連続する建物を生み出し、住まい手が街と家で切れ目のない体験ができる住環境をと考えた。





ニワ。1階ニワの天井高は3,695mm。角ヒバの方杖が2階を支える。

■設計コンセプト

聴く

中川氏は、住宅購入は施主にとって一生一度の出来事であるという考えから、施主家族の意見を聴くことを重要視している。その空間で暮らす人たちが皆の思いをすべて聴き、そこから「住む人間を表すユニークさ」を読解しながら施主の要望をカタチにしていく。

聴くことで施主の想いを汲み取る。

見る

中川氏の設計手法は見ることから空間を創造する。現地のサーヴェイはもちろん、必要に応じて建物の模型だけではなく周辺環境も含めた模型や接合部のみの模型を製作し、あらゆる方向から建物と空間を検討する。

見ることで敷地のビジョンを拾い出す。

創る

「施主の要望をカタチにする」ために、「家と近隣との関係性を図る」ために、「建物を街と連続させる」ために、建築模型は重要な役割を担う。自身

の設計手段だけではなく施主との話し合いの場でも建築模型を用いて、あらゆる角度から建物を見ることでそこに生み出される住空間を想像し、さらに隣家からの視線や周囲への視線を調整し動線や素材を検討することで周辺環境と調和する建物のデザインを検討する。

創ることで環境との調和を考える。

■外観

外観はコンクリート、木、金属、ガラスと様々な素材と幾何学的なデザインの組み合わせが印象的である。

周辺環境からの検討

街との調和

この住宅は2階の開口部の位置から高さを検討した。2階のリビングルームから外を見たときに前面道路に架かる電線が見えないように窓下に配された高さ900mmの塗装ガルバリウム鋼板製外壁の上端の高さを電線の位置に合わせた。この部分はデザインだけではなく2階の開口部を

広くとるための梁的な役割も担っている。また継ぎ目の目立たない小波板を使用することで施工やメンテナンスが容易になるよう工夫している。

見えない境界

建物のアプローチをみると門扉はなく緩やかなスロープになっており、ピロティの奥にある階段の先に玄関がある。木材で配された柱や方杖部分は視覚的に抜け感があり敷地外に対して開放的に感じられる。しかし見通しの良さにみられるように街と「空氣的に繋がっている」ことを、道路と敷地の「高低差のギャップ」により家族以外の人を敷地内に入りにくいように心理的に誘導しているという。この中間領域により「目に見えない境界と街との連続性」をつくりだしている。

■内部空間

外との繋がり

1階はニワと玄関と夫の書斎と収納スペースのみで、家族が過ごす生活空間は2階にある。2階は屋根の形状そのままに天井があり、中央が高く

外側が低くなるような勾配をつけている。またリビングルームは白い壁とガラス窓で囲まれた広々とした空間を創り出している。リビングルーム横の個室3室は壁で仕切られているが上部を抜けさせることで圧迫感を無くした。さらにその上の天井との接合部分は屋根の重なりをズラしてつくったハイサイドライトが連なっている。抜け感のある壁の繋がり、ハイサイドライトによる外との繋がりにより、2階にはおおらかな空間が創出されている。

またニワの奥、1階の居住空間の床下は杭を地上に露出して家を支える柱として活用したことにより、幼児が入れるくらいの空間ができあがった。この狭い空間は子どもたちの遊び場にもなっており、さらに夏はひんやりとした涼しい空間となるため、大人でも座って涼むのに良い空間だという。

ガルバリウム鋼板の魅力

この住宅は壁面と太陽光パネル一体型屋根に塗装ガルバリウム鋼板を使用している。「建築素材としての



キッチンよりリビングダイニングを見る。向かって左側は奥から主寝室、子供室1・2。各室は引き戸で仕切ることができる。

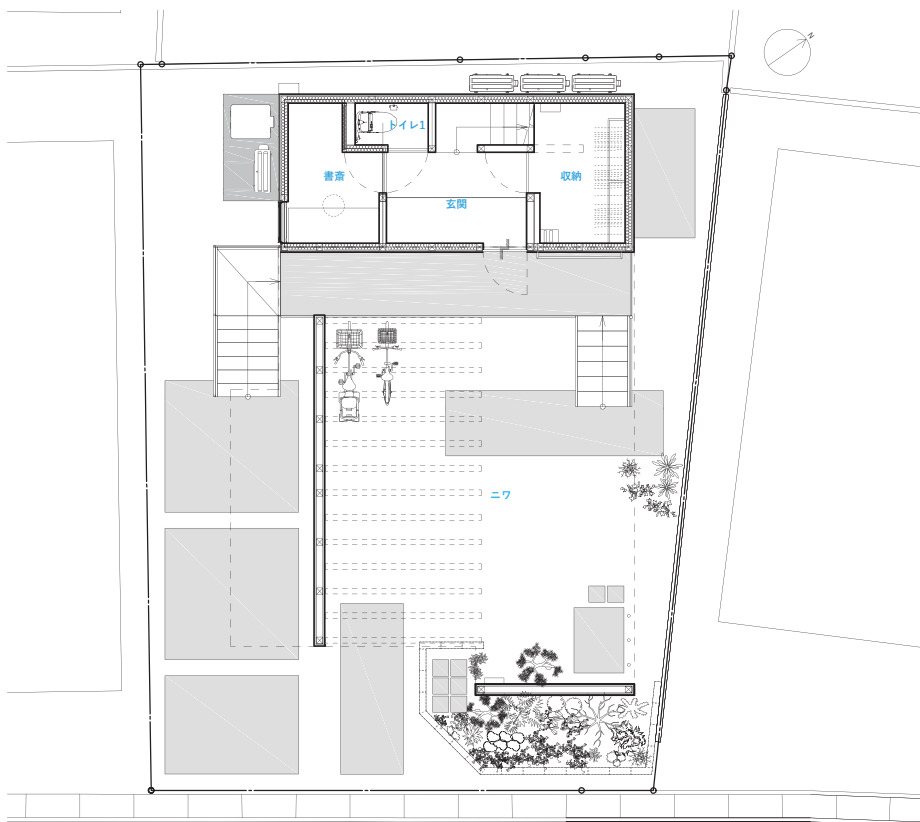
ガルバリウム鋼板」の中川氏の評価は高い。素材自体の軽量さやメンテナンスのしやすさ、色や形状も豊富で街にある既存の素材との相性がよく環境に馴染みやすい利点を挙げた。

「素材が連れてきてくれるはたらき」と中川氏が言うように、ガルバリウム鋼板は素材として街や環境に融和しやすい素材になっている。

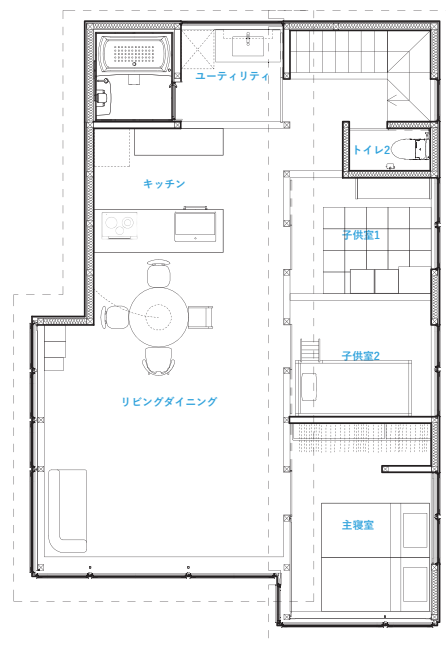
*

最後に、建築を考える際に空間を決めない、一般化しない、さらに構法は決めず住み方や建て方に合わせて考えていくという中川氏の言葉に、次世代の建築や建築家の在り方を作品とインタビューを通して垣間見た。

先入観をなくし前人未到の建築を目指す建築家は、施主の想いを聴き全てをまとめずに建築や空間を考える。中川氏の今後の活躍が楽しみだ。



1階配置平面図



2階配置平面図

設計：中川 エリカ / 中川エリカ建築設計事務所

中川エリカ建築設計事務所（一級建築士事務所） / 〒145-0066 東京都大田区南雪谷2-14-2

[tel&fax] 03-6413-8105 [e-mail] erikanakagawa.office@gmail.com [URL] http://erikanakagawa.com/

レポーター：東京大学 大月研究室 深見 かほり

ウォートルス伝 36

アーネストが関与した テルライドの鉱山

藤森研究室

担当 丸山 ^{もとこ} 雅子

かつて明治政府のお雇い外国人として来日し、その後、米国コロラド州で鉱山技師として活躍したウォートルス兄弟の末弟アーネストは、1893年5月、薬物の過剰摂取により41歳で亡くなった。「コロラドで最も裕福な鉱業従事者の一人 (one of the wealthiest mining men in Colorado)」(注1)、「コロラド鉱山王の一人 (one of the bonanza kings of Colorado)」(注2)とも称された彼は、兄弟のあいだで何年も争いが続くことになる遺産を遺した(注3)。

「興味を持った鉱区はすべて開発するのがウォートルス氏の常である (it is the habit of Mr. Waters to develop all mining property that he is interested in)」(注4)と言われたほど、彼は多くの鉱山に関わっていた。また、死の約一年半前、新聞記者から「あなたの所有する株の価値はいくらか」と尋ねられた際には、「どれも売るつもりはありません (There are none for sale)」と答えており(注5)、亡くなる時点まで多くの株式を所有していた可能性が高い。

彼の遺産には、デンバーの一等地をはじめとする不動産や、複数の鉱山の株式が含まれており、正確な金額を割り出すことは難しいが、当時の新聞報道によれば、約20万ドル(注6)、あるいは20万ドルから30万ドルの間(注7)と伝えられている。



JOHN A. PORTER.

図1 J・A・ポーターの肖像
フライベルク鉱山学校時代からのアーネストの友人。1880年にはデュランゴで、ポーターがゼネラルマネージャー、アーネストが現場監督を務めて製錬所を建設した(注27)。アーネストの生前の姿を最後に見た人物でもある(注28)。
出典:『Engineering & Mining Journal』第52巻13号、1891年9月26日、357頁。

アーネストの死から二か月後、裁判所は兄のトーマスとアルバートを遺産執行人に任命し、12万ドルの保証金を課した(注8)。この保証金は、執行人が遺産を適切に管理・分配することを担保するためのものである。この額からみて、遺産総額は少なくとも12万ドル以上、新聞報道のとおり20万ドル程度であった可能性がある。現在の日本円に換算すれば、10億円を超える額に相当する(注9)。

アーネストが1877年以降に取り組んだコロラド州での初期鉱山事業については、すでに概略を紹介した(注10)。今回は、彼が特に深く関与したテルライドの鉱山事業に焦点を当て、晩年を含む活動について、より詳しく見ていきたい。

晩年の転機となったのは、1891年7月の長兄トーマスの渡米である(注11)。これに合わせるように、アーネストはデンバーのユニオン駅前の一区画を取得し、約一年をかけてシェリダンを建設。そのなかにウォートルス兄弟社の

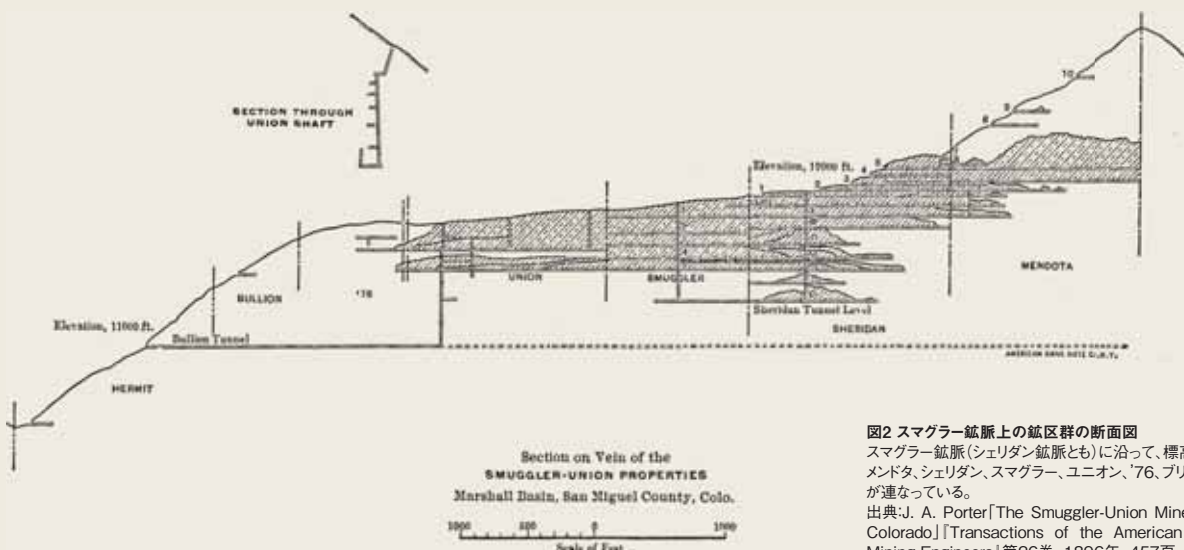


図2 スマグラ-鉱脈上の鉱区群の断面図
スマグラ-鉱脈(シェリダン鉱脈とも)に沿って、標高の高い順に、mendota、シェリダン、スマグラ-、ユニオン、'76、プリオンの各鉱区が連なっている。
出典:J. A. Porter『The Smuggler-Union Mines, Telluride, Colorado』[Transactions of the American Institute of Mining Engineers]第26巻、1896年、457頁。

事務所を設けた(注12)。建設中の1892年4月には、体調不良を理由にテルライドの鉱山会社のゼネラルマネージャーを二か月間休職し、結局そのまま、その年の採鉱シーズンが本格的に始まる前に辞職した(注13)。

一見すると、彼はテルライドの鉱山事業から撤退し、デンバーに拠点を移したかのように見えるが、実際はそうではなかった。彼はテルライド周辺での金鉱開発を計画しており、兄のトーマスやアルバートも、デンバーに事務所を構えながら、テルライドの鉱山に関与していた。

以下では、アーネストが深く関与したテルライドの鉱山事業について、鉱区ごとに解説する。なお、筆者は米国のmineを、単数形で用いられている場合は「鉱山」ではなく「鉱区」と訳すことが多い。というのも、日本語の「鉱山」は、鉱石が採れる山全体を指すのが一般的だが、米国におけるmineは、300フィート×1500フィート(約91メートル×約457メートル)の細長い区画を指す場合が多く、その規模ははるかに小さい。これは米国の鉱業法により鉱脈に沿って最大1500フィートまでの採掘権が認められていたことによるため、こうした一区画がmineと呼ばれた。したがって米国では、一つの鉱山のなかに複数のmineが存在するのが一般的である。なお、“mines in Telluride”のように複数形で地域全体を指す場合には、「テルライドの鉱山」と訳すこともある。

(1) シェリダン鉱区(The Sheridan mine)

シェリダン鉱区は、1875年、サンミゲル郡(当時はユーレイ郡の一部)に属するマーシャル盆地に設定された。現在のテルライド(当時の町名はコロンビア、注14)から北東に約4マイル(6km強)、標高約12,000フィート(約3660m)の地点に位置し、広さは300フィート×1500フィート。幅6フィート(約1.8m)の銀鉱脈を含む鉱区である(注15)。

この鉱区にアーネスト・ウォートルスに関わるようになるのは、彼が中国に政府の業務に従事していた1883年のことである。同年9月、上海からシルバートンに一時帰国したアーネストは、シェリダン鉱区の大きく美しい地図を二枚所持していた(注16)。その後上海に戻った彼は、同地の英国人投資家グループに雇われ、シェリダンの取得交渉に動いた。同年11月、上海でシェリダン鉱山会社(Sheridan Mining Company)が設立され(注17)、アーネストは同社の代理人となり、友人のJ・A・ポーター(図1)を通じて、翌1884年3月末までに前所有者への支払いを完了させた(注18)。

この時点でアーネストはすでにゼネラル・マネージャーに任命されており、5月下旬には、上海から視察に訪れた株主たちを、雪の降るなか、ポーターと共に鉱区へ案内している(注19)。その後、7月には採掘が開始され(注20)、大量の鉱石が出荷されるようになった(注21)。初年度から「この鉱区はまさに大当たりで、コロラドでも最大級のものである(The property is simply a bonanza, and one of the largest in all Colorado)」と評されている(注22)。

1886年8月までに、鉱脈に沿って、鉱区の端から端まで1500フィートの横坑が掘進され、そのうち1430フィートにわたり高品位の鉱石が確認された(注23)。また、シェリダンの鉱石に金が含まれていることも判明した(注24)。

1887年には、調査・地図作成・費用見積もりが完了し、アーネスト主導のもとで大規模な整備計画が進められることになった。計画には、従来の坑道よりもはるか深く鉱脈へと達するクロスカット・トンネル(立入り坑道)、そのトンネルが鉱脈と交差する地点に設けられる立坑、トロッコ軌道とインクライン(傾斜鉄道)システム、鉱石貯蔵庫、選鉱場の建設が含まれていた(注25)。

1888年には、「シェリダンは、アーネストの管理下に入って以来、この鉱山集落(テルライド)における主力鉱区であり、最大の鉱石出荷鉱区であり続けてきた(The Sheridan in particular having been the greatest shipper of ore and the mainstay of this camp since coming under the management of Mr. J. H. Ernest Waters)」と高く評価された(注26)。



図3 1890年頃のシェリダンとメンドタ

標高11,500フィート(約3500m)を超えるマーシャル盆地では、年間の大半が雪に覆われる。手前に見えるのがメンドタ、やや下方に見えるのがシェリダンの坑口を覆う建物と考えられる。

出典:John G. Canfield「Mines and mining men of Colorado, historical, descriptive and pictorial」1893年頃、88頁。

(注)

- 1 『The Colorado Daily Chieftain』1892年6月8日、5頁。
- 2 『The Colorado Daily Chieftain』1898年1月13日、1頁。
- 3 アーネストの遺産を巡る兄弟間の争いは、当時の新聞にも報じられているほか、コロラド歴史協会図書館の文書コレクション(Colorado Historical Society Manuscripts Collection)に含まれる『Macbeth and May Correspondence』資料の中に、イギリスに住む姉妹たちとデンバーの法律事務所との間で交わされた書簡が多数残されている。筆者が確認した最も遅い日付は1914年6月11日であり、アーネストの遺産の行方についての問い合わせが、トーマスやアルバートの死後も続いていたことがわかる。
- 4 『Telluride Republican』1891年7月24日、2頁。
- 5 『The Rocky Mountain News』1891年12月31日、6頁。
- 6 『Denver Republican』1893年5月10日、1頁。
- 7 『Telluride Republican』1893年5月13日、2頁。
- 8 『The Rocky Mountain News』1893年7月11日、7頁。
- 9 ネット上のインフレーション計算機(<https://www.officialdata.org/>、<https://westegg.com/inflation/>)によると、1893年の1ドルは現在の約35.5~35.7ドルに相当するという。1ドル=145円として換算すれば、1893年の1ドルはおおよそ5150~5180円に相当する計算になる。
- 10 本誌2023年春号参照
- 11 本誌2023年夏号参照
- 12 本誌2024年夏号参照
- 13 『Engineering & Mining Journal』第53巻18号(1892年4月30日)、478頁。『The Aspen Daily Times』1892年6月28日、1頁。
- 14 当時コロラド州にコロンビアという名の町は複数あり、混乱を生じかねないという理由から、改称された。一説によると、テルライドと命名したのはアーネストだという。Gertrude B. Sayre『Old Smuggler Narratives』1940年、American Heritage Center, University of Wyoming所蔵。
- 15 『Engineering & Mining Journal』第51巻22号(1891年5月30日)、637頁。
- 16 『Silverton Democrat』1883年9月15日、3頁。
- 17 『The North China Herald』1883年11月28日、24頁。
- 18 『The Rocky Mountain News』1884年3月21日、3頁。『Leadville Daily Herald』1884年3月22日、3頁。
- 19 『The Solid Muldoon』1884年5月30日、3頁。
- 20 『The Solid Muldoon』1884年7月4日、2頁。
- 21 『The Rocky Mountain News』1884年10月9日、6頁。
- 22 『The Solid Muldoon』1884年10月17日、3頁。
- 23 『The Idaho Springs News』1886年8月6日、3頁。
- 24 『The Solid Muldoon』1886年9月3日、3頁。『The Silverton Democrat』1886年9月11日、3頁。
- 25 『The Silverton Democrat』1887年11月19日、2頁。
- 26 『The Queen Bee』1888年9月26日、2頁。
- 27 本誌2023年夏号参照
- 28 本誌2024年秋号参照

街でみかける ファインスチールの施工例 その60



波照間製糖工場

「波照間製糖工場」は、八重山諸島の波照間島にある、含蜜糖（黒糖）の生産を行っている、2014年に完成したエメラルドグリーンの塗装ガルバリウム鋼板製の製糖工場。ここは、日本最南端の製糖工場としてとても有名である。

それと同時に、自給用としてあった農地はサトウキビ畑に転換され、現在ではサトウキビ畑が島の耕地面積の90%以上を占めると言われている。

黒糖は、サトウキビを加工して作るが、波照間島の土壌がサトウキビの栽培に適していることや、主な収穫方法がユイマール（共同作業）による手刈り収穫のためトラッシュの混入が少ないことから、黒糖の品質が良いとされ、市場で高い評価を得ている。





2 天草パールガーデン

「天草パールガーデン」は熊本県上天草市にある、真珠専門店をはじめとしたショップ、食事処、水族館を擁する複合施設で、天草の魅力が詰まった観光スポットである。

1966年(昭和41年)に開業した「あまくさ真珠専門店 パール・センター」を、2021年に「天草パールガーデン」としてリニューアルオープン。黒と赤を基調としたスタイリッシュな塗装ガルバリウム鋼板製の建物が並び、天草の絶景を楽しみながら食事ができるレストランやカフェなどのグルメ店から、シーグラスを使ったアクセサリー作り体験なども充実。真珠専門店、天草の海産物や工芸品などが揃う土産物店などが軒を連ねる。

「あまくさ真珠専門店 パールの店 天珠館」では、アコヤ貝真珠や南洋淡水パールなどを使用した数多くのアクセサリーがそろっている。「おみやげ Amarche」では海産物や工芸品など、約1,500種15,000点以上の商品を取り扱っており、ショッピングを楽しめる。また、様々な手作り体験も可能で、ハーバリウム作り体験やレジンアクセサリー作り体験など、旅の思い出作りに最適な人気の手作り体験が勢ぞろいしている。



FINE STEEL!

ボクらは
「自在に変化」
進化した鉄!

ボクらは「自在に変化」進化した鉄!

ファインスチールは、鉄の長所を最大限に活かしながら、これからの家と暮らしにふさわしい特長を合わせ持つ、現代建築の最適な素材として注目を集めています。新しい住まいで始まる暮らしをより良いものに。ファインスチールが理想のカタチを実現します。

ボクらの
特長

地震につよい 表面がきれい 環境にやさしい

屋根材・壁材には **ファインスチール**



全国ファインスチール流通協議会

<http://www.zenkoku-fs.com>

